

○議長（中村 敦） 次は、質問順位 6 番、1、下田保育所の津波避難計画と認定こども園との統合の見通し、休日保育の実施について。2、学校図書室の現状と課題について。

以上 2 件について、11番 鈴木 孝議員。

〔11番 鈴木 孝登壇〕

○11番（鈴木 孝） 公明の鈴木 孝です。

議長の通告により順次、質問をいたします。

最初に、下田保育所の津波避難計画と休日保育について伺います。

以前私は、議会一般質問で下田保育所の津波避難計画について質問をいたしました。その中で、東南海地震による市内の津波浸水想定時間内に、避難場所である旧下田幼稚園に保育所の幼児、乳幼児を避難させることは困難なのではないか。避難経路の建物の倒壊、山ののり面から岩の落下などの危険性はないのか。下田保育所を廃止し、安心安全な津波浸水域外での保育施設に切り替えることはできないのか等の質問をいたしました。避難訓練の実施状況など津波に対する対応を回答していただきましたが、安心できる状況ではないという思いを感じながら一般質問を終えた記憶がございます。

当時の避難計画として、避難の際、保育士だけではなく学校教育課、生涯学習課の職員も一緒に避難をするとの回答もありましたが、新庁舎完成時には各課とも新庁舎に移ることになるため避難がより困難になることや、下田市の出生数の減少により今後、認定こども園と統合ができる可能性が出てきたことを踏まえ、津波避難計画も変わってきていると思われます。市民の皆様にご安心いただくためにも、現在、そして、今後の避難計画について伺いたいと思います。

また、以前に一般質問をしました休日保育も、認定こども園との統合により人的問題も解決することが想定されるため、進めることも可能だと思いますが、休日保育を進めていけるかについても伺いたいと思います。

次に、学校図書室の現状と課題について伺います。

文部科学省では、令和 4 年度から 8 年度を対象期間とする第 6 次「学校図書館図書整備等 5 か年計画」を策定し、公立小中学校等の学校図書館の整備充実を進めています。この計画は、公立小中学校等の学校図書館における学校図書館図書標準の達成、計画的な図書の更新、新聞の複数紙配備、学校司書の配置拡充が図られることを目的としており、本計画に基づいた地方財政措置が講じられております。

読書は、児童生徒の想像力を養い、学習に対する興味関心等呼び起こし、豊かな心を育

みます。学校図書館は、読書活動、読書指導の場として、全ての子供に本を選んで読む経験や読書に親しむきっかけを与え、静かに読みふける場所としての機能を果たします。子供の頃から本を読む習慣を身につけるためにも、学校図書館の役割は非常に大切だと感じます。

下田市においては、学校司書やボランティアの方々が工夫をして学校図書館を盛り上げていただいているとも伺ってはおりますが、いろいろな課題もあると思います。下田市の学校図書館をさらに良くしていくためにも、現在の状況、課題を伺いたいと思います。

以上で趣旨質問を終わります。

○議長（中村 敦） 当局の答弁を求めます。

教育長。

○教育長（山田貞己） 鈴木議員がここで取り上げている保育という子育ての時期の重要さというのは、昨年の9月議会でも鈴木委員から御指摘がありましたが、現在も受け止め方は変わらず、ニーズを見ながら可能な対応を考えていく必要があるかと思っています。

それに関連してくることとして、保育所への対応でございますが、能登半島地震の教訓から避難計画につきましても見直すとともに、教育委員会の令和8年度河内庁舎への移転に伴って、その後の保育所への避難時の応援体制も危惧されることから、できるだけ早い時期に下田認定こども園の1園化を視野に入れて進めてまいりたいと、そのように考えております。

学校図書館についてでございますが、議員の皆様の中には、先日も触れましたけれども、昨年度から今年度にかけて市内学校を訪問していただき、学校図書館につきましても視察をしていただいている状況でございます。下田市では現在、学校図書館司書を2人雇用しておりますけれども、学校図書館担当教諭等と連携して子供、授業、様々な活動のニーズに合わせた図書の購入をはじめ、読み聞かせの計画と実施、児童生徒が本を手に取りたくなるような、また、目にとまりやすくなるような図書室のレイアウト、それから掲示など、非常に工夫や推進意図が見える図書室経営をしていただいております。

今後は、司書の増員はもちろん、移動図書館車両も加わった市立図書館との連携を一層推進して、さらに充実した学校図書館経営、運営が期待される場所であると思っております。

休日保育、学校図書館につきましても補足、詳細については担当課長から申し上げます。

以上でございます。

○議長（中村 敦） 学校教育課長。

○学校教育課長（平川博巳） 初めに、下田保育所の津波避難計画、認定こども園の統合の見直し、休日保育の実施の部分に関してお答えさせていただきたいと思っております。

下田保育所の津波避難計画につきましては、昨年1月の能登半島地震を受け、大規模な地震が発生した場合には、近くて高い場所への避難が現実的であると考え、一時避難所を春日山避難地とし、旧下田幼稚園は2次避難場所とすることといたしました。

昨年2月に、下田小学校の避難訓練に下田保育所の園児、保育士、教育委員会職員で共に参加し、春日山避難地への避難経路、危険箇所などを確認いたしました。今年度に入り11月に実施いたしました訓練は、雨上がりのため、登り口の下までの訓練でしたが、訓練開始のサイレンから約8分で避難路下まで全員が到達することができました。

また、春日山避難地には、区が設置した倉庫に水、ファン、ブルーシートを入れさせていただき、簡易トイレも設置済みでございます。旧下田幼稚園には、園児一人一人の防災用品を置いていること、屋根がある避難場所であることから、地震の規模、発生状況などにより、可能であれば2次避難場所の避難も想定しております。

教育委員会の移転後は、園長や保育士も地域防災訓練等に参加するなど、迅速な避難ができるように幅広い防災への備えを進めてまいります。

統合の時期につきましては、教育委員会が河内庁舎に移動する令和8年度からのスタートを目標としておりますが、遅くとも令和9年度までには下田認定こども園の1園化を目指したいというふうに考えております。

また、休日保育につきましては今後、統合に伴う保育士の配置状況や民間保育所の意向等も踏まえ、保育サービスの充実について検討してまいりたいと思っております。

続きまして、学校図書館の現状と課題ということで、教育長の補足答弁をさせていただきます。

現在、小中学校における蔵書状況は、学校規模における図書標準冊数を下回っている学校は下田中学校のみで、小学校に関しては達成している状況となっております。

新聞の複数紙配備につきましては、こども新聞を含め、全校2紙以上の配置を行っております。

教育長からの答弁にもありましたが、学校図書室の活動内容といたしましては、図書の購入・廃棄などの蔵書管理、ブックトーク、お薦め本の紹介、調べ学習の教材本の調達、読み聞かせなどの事業支援、図書室の飾りつけ、季節のコーナーなど、環境整備が主なものです。また、各校のPTAの有志や地域のボランティア団体等との読み聞かせ、図書室の整理、清掃なども行っております。

課題といたしましては、ブックトークなどの読書活動に時間が割けない学校もあることや、

単学級が多いため学校間での横のつながりを持てればもっと良くなるのではないとの意見を聞いております。

図書室の環境整備としては、下田中学校の統合に合わせて整備しました図書館管理システムの導入に伴い、蔵書管理だけでなく、バーコードによる簡易的な運用が図られております。また、今年度未設置となっておりました空調設備も、小学校が図書室に設置いたしましたので、来年度からは快適な空間が確保できるというふうに思われます。

私からは以上です。

○議長（中村 敦） 鈴木議員。

○11番（鈴木 孝） どうもありがとうございます。

まず、下田保育所のこの避難の計画ということで、この令和8年度、遅くても令和9年度に統合ができる計画ということで、少し安心しております。

ただ、地震、津波というものがいつ起こるか分からない、また、来ないかもしれない、全然分からない状態なんですけど、今来てもおかしくないという状況の中で、やはり子供を親が失うということは非常に残念だし、また、保育士さんのことも考えると、もし1人でも子供を失うことになったら、後々深い傷になるということもありますので、我々はどうにかしてそのリスクを少なくしていかなければならないと思います。

ですので、これを1園にするということは大変なことで、保育士さんに負担もかかるし、当局としてもかなり負担がかかる作業だと思うんですが、できたら令和8年度に統合できればいいかなと思ってますので、よろしく願いいたします。

とにかくできるだけ避難をしないところに園児を、保育をしたいということがあります。小学生なら、まだ春日山に避難して、いろいろそれから移動してとか、いろんなことができると思いますけれども、やはりもうゼロ歳児もいるということを見ると、もう避難しないのが一番だと思いますので、早く実現できるといいと思います。

また、園児だけではなく、僕の想定なんですけれども、本当に津波が来るぞとなったときに、父親、母親、家族が助けに行くというか、そういうことが想定されると思うんです。まだ町なかであれば少しはいいんですけれども、もしかしたら、例えば吉佐美のほうからもう大変だということでこっちの海のほうに向かって助けに来るというか、一緒になって避難をしようというお父さん、お母さんがいるかもしれません。そうすると、そこのお父さん、お母さんも一緒に津波に巻き込まれるようなことも想定されますので、一日も早い統合をお願いいたします。

あと、休日保育のことなんですけれども、以前にも私も一般質問をさせていただいたんですが、観光のこの町である下田なんですけれども、なかなか人手不足というのがあります。しっかりと営業を頑張っているとお客さんはくるんですけれども、その対応ができない状態があると思います。そのときにやはり頼りになるのは、子供がいる方のお母さんとかお父さんとか、そういう方も一緒に観光業というものに携わっていただけないと、なかなかこの人手不足が解消できないということがあると思いますので、ぜひ休日保育ということもお願いしたいと思います。

以前も一般質問でも述べましたが、賀茂地域というのはほとんど公立の保育所というものが休日保育をしていない、伊東ぐらいいまて行くと伊東市ではやっている、あとは伊豆市ぐらいいまて行くとやっているんですけれども、もう賀茂地域は対応がなされていないということで、この辺もどうかやってほしいと思います。静岡のほうに、都会のほうに行くと民間の施設がありますから、対応ができていますということですので、この賀茂地域ということは観光の町であることから、ぜひとも休日保育を進めていただきたいと思います。

ここでちょっと質問をさせていただくんですが、休日保育に関しては、1園に統合された場合にはすぐに実施されるということで間違いないでしょうか。

○議長（中村 敦） 学校教育課長。

○学校教育課長（平川博巳） 今の段階で、すぐに実施というところまでの検討は進んでいません。ですから、ほかの施策と併せて、あとは職員の体制だとか、民間さんとも一応相談をしながら、どういう形で、少しでも充実ができればというふうには思っています。

以前の9月の質問のときに、アンケートを実施しますということで、ちょっと今集計中ですというところで御答弁をさせていただいたんですが、そちらのほうはまとまりまして、今年度つくっています子ども子育て支援事業計画のほうにはその調査結果は載せてあるんですが、簡単に認可保育所のほうでは、年齢別にゼロ歳児の保護者の方、1歳児の保護者方という形の中で、おおむね人数的には各年代で1名いるかどうか、休日保育を望んでいる、希望する方、利用の希望が見られるのは、認可保育所のほうでは0人か、または1名というところでした。

ただ、認定こども園のほうに関しては、多いところでは2歳児だと6.3%、2人から3人、年齢によって4歳児のところは誰もいなかったというような結果になっていますので、これがちょっと土曜日ですと20人ぐらい利用は少なくともしていますので、その辺の利用状況をもう少し精査する必要があるかなというところは正直、担当と協議を進めていますので、ま

た統合に向けてこの辺のところをしっかりと考えていきながら、実際にやっていけるのかどうかというところも踏まえながら検討していければと思っています。

以上です。

○議長（中村 敦） 鈴木議員。

○11番（鈴木 孝） 休日保育を希望する人というのは、あまり多くないんだと思います、今の段階では。なぜかという、もう日曜日は休日保育がされないもので、日曜日を働く仕事に就いてないということもあると思うんですよね。もともとそういう状況であるんで、もう諦めているという状況があると思うので、今の状況でアンケートを取ると少ないんじゃないかなと思うんですけれども、これから将来のことを考えると、そういう休日もどこかで保育ができる体制というものを取ることにより、例えば下田に移住してもそういう体制が取られているんだなっていうことにもなると思いますので、少ないからといってやらないというのではなく、将来のことを考えると、そういう体制を整えるということが必要だと思います。

これは、必ずしも公共でやれというわけではなくて、どこかで受皿があればいいと思うんですね。そんなに何十人もいるというわけじゃないと思いますので、そういう受皿をつくっていただければそれでいいと思いますので、その対応もぜひともよろしく願いいたします。

次に、学校図書館なんですけれども、何でこの質問をしたかといいますと、以前から下田の図書館というものをどうするかという議論がかなりありまして、私もいろいろ考えていたんですけれども、やっぱり下田市の図書館も大切なんです、やはり子供の頃の本を読む習慣というものが非常に必要だと感じたもので、学校の図書館の状況ってどうなのかなっていうことでいろいろ伺っていたところ、かなり充実をしているということで伺っております。

僕も子供の頃、図書館というか、「図書室」って言ってたんですけど、図書室で本を借りていろいろな本を読んだ覚えがありまして、そのときのその図書室の様子というのも脳に焼き付いていて、あんな感じだったんだなって記憶があるんですね。ですので、やっぱり一番基になるのは小学校ぐらいかなと、それから中学校、なるべく若いうちに本を読む習慣をつけていただきたいと思います。

その上で、ボランティアの方も一生懸命活躍されると伺っていたんですけれども、ボランティアの方も頑張っている中で、司書をもう少し増やすことも要望されていると思うんですけれども、ボランティアではちょっと足りないというか、やり切れない部分があるとするとうどういうことなのかということ伺いたいですけれども。司書を増やすことによって、もっとどういうことができるのかっていうのを伺いたいです。

○議長（中村 敦） 学校教育課長。

○学校教育課長（平川博巳） 今2名なんですが、8校をうまく分けていただいた中で本当に頑張ってください。ですから、ブックトークですとか本の紹介だとか、本当に各学校の図書室も子供たちが行きたくなるように、ポップっていいまして本の紹介を作ってくれたりすごく手の込んだことをやってくれて、ボランティアの方たちは一緒に読み聞かせをやってくれたり、当然図書館のほうの司書とも協力をしながら、各学校に出向いていろいろな授業の教材を調べたりというふうにやってくれています。そこは協力する各学校さんでPTAの方にも協力していただいてというところは、強制はできないものですから、そういう中では非常にうまく回っているのかなというふうには考えています。

ただ、実際、今いる司書さんが非常に一生懸命やってくれている方なものですから、もう少しもっと充実した形を取り入れると、もっとより良く授業の教材を先生方ともっと調整ができたりという幅が広がるのかなというふうには考えていますので、またそこはボランティアの方たちも協力もお願いをしながら、また新年度に向けて司書さんとも協力をしながらできる限りのことを、図書館のほうとも協力をしてというのを現状の中でうまくやっていくのを進めていきたいというふうに取りあえずは考えております。

以上です。

○議長（中村 敦） 鈴木議員。

○11番（鈴木 孝） ありがとうございます。

僕も想像でしかちょっと申し上げられないんですけども、いろいろと飾りをしたりお薦めの本というものをポップみたいに立てたり、「面出し」といって本を立てて表示するようなことをして、そういう工夫がされていると思うんですけども、一番大切なのは、声がけしたりするっていうことは大切なんじゃないかなと思うんですね。やっぱり本を借りてきて子供にどうだったとか、こういう本もあるよとか、いろいろ感想を聞いたりするっていうことで何か子供の心にも学校司書さんとの対話をした思い出みたいなものがあって、さらに褒められたりすると、一生懸命また次の本を読んでみようとか、そういうことになると思いますので、学校司書がもう一名ぐらいいると大分また違ってくるんじゃないかと思うんですけども、その要望を僕もどうにかしてかなえられるようにしようと思ってやっておりますけれども、やはり予算がありますので、予算配分の中でボランティアの人も頑張っていたいし、司書の方も少ない人数で一生懸命頑張っているの、まあまあこれでどうにか頑張ってくれよということもあると思うんですけども、さらに1名増やして、もっとよりよ

い充実がされればいいと思っております。

それには、やっぱり税収を増やしていくということも大切で、その予算があれば人にも予算を充てられると思います。令和7年度の施政方針の中で市長が、越冬の準備として下田市全体の体質改善をしなければならないということが語られていますけれども、いろいろ休日保育という面もそうなんですけれども、やはり産業の活性が税収を生んでいって、税収を生むことによって教育にもお金が充てられるということになるので、やはり限られた予算の中で取り合いをするのではなくて、どうにかして税収を増やしたいという気持ちがあります。

越冬の準備という、何となく冬でずっと耐えるような感じがして暗い感じになってしまうんですけれども、多分市長がおっしゃるのは、ただ耐えるだけじゃないと思いますので、ただ、あまり下田市はお金がない、お金がないばかり言っていると、やっぱり希望が湧いてこないというところがありまして、冬が過ぎれば春が来るということで、どうやってこの春を私たちが市民の皆さんに示されるかということが大切じゃないかなと思うんです。

例えば施政方針にもありましたけれども、インバウンドの増加やデジタルノマドの台頭などがあるということが書かれていますけれども、それとともに、例えば観光業というものが低賃金であったにもかかわらず、最低賃金もどんどんどんどん上げるということでだんだんと賃金も上がってくるということ、また生成AIの成長や、この先に行くと、今まで大企業だけの輸出というものから中小企業の、零細企業も含めて、円安もあって輸出ということも考えられる時代が来ると思いますので、何かその中で、このまま行くと経済成長が止まってしまっていて日本が駄目になってきて、地方はさらに駄目になってきて、どんどんどんどん駄目になるようじゃなくて、今が冬かもしれないですけどここを乗り越えて、やりようによっては地方というものは良くなるんだよということを何か希望を持ってやっていきたいと思えます。

市長、どうでしょうか、何かあれば。メッセージが多分みんなに伝わってなくて、みんな冬を縮こまらせてずっと耐えていこうみたいな感じがあるんですけれども、何かメッセージがあればお願いしたいんですけれども、最後になります。よろしくお願いします。

○議長（中村 敦） 市長。

○市長（松木正一郎） そもそも私が令和7年度の予算編成に当たって各課、課長さんに申し上げたのは、緊縮財政でカットばかりすると、やっぱりそれは体制として、私たちの姿勢としてどうも暗くなっちゃう、それはもう本当に鈴木議員の御指摘のとおりだと思ったんです。カットばかりしていたら何のチャレンジもできない。私が考えたのは、チャレンジするため

に一旦越冬しなきゃいけないという、そういう意味です。

私の通っていた学校の校訓で「忍」という校訓があったんですけど、耐え忍ぶの「忍」なんですけど、それをその当時の校長は「積極的「忍」」というふうに言われたんです。積極的「忍」というのは何なのかというと、期するべきところがあって、そのために今耐えるんだと、こういうふうな言い方でした。

最近ずっと寒い日が続いていまして、今、川桜は満開でございます。必ず春は来るわけですから、私たちはその春にちゃんと動けるようにしなければならない。だから、全てやめよう、やめようということではなくて、チャレンジをちゃんと私たちは意図しながら、そして今は筋肉をつける、そういった意味で「越冬準備」というふうに申し上げました。もし万一、うちの職員がお金がないからということで思考も停止してしまうようではならないと思います。そういうような姿勢がもし見られましたら、ぜひ私のほうに・・・と思います。

職員の皆さんも同じ考えであろうかと思えます。お金がないからやらないということではなくて、やれるようにするためにはどうすればいいのかっていうことを真剣に考えるというふうなことで、あくまでもカットカットのための言葉ではなく、積極的「忍」というふうに御理解いただければと思います。

以上でございます。

○議長（中村 敦） 鈴木議員。

○11番（鈴木 孝） ありがとうございます。勇気が湧いてまいりました。

とにかく国や自治体、市もそうなんですけれども、割と求めることが多くて、これもやってほしい、あれもやってほしいということがたくさん出てきて、それは高度成長期はどんどんどんどんサービスを増やしていったというところがあるんですけども、そろそろそれがもう限界に来て、これもやったほうがいいのは分かってるんですけども、ここはちょっと費用対効果が悪いなということはどうだんだんできなくなってくる。特にこの下田市の場合には、財政的に何でもかんでもできるということはないようになってきているので、そこはそこですっきりと、そこはお金がないということだと思えます。費用対効果があるものをしっかりとやっていく、それと、本当に困っていてどうにもならない人のために自治体としてやるべきことは必ずやっていく、その使い分けが大切だと思いますので、一生懸命我々も頑張ってみますので、どうかよろしく願いいたします。

以上で、質問を終わります。

○議長（中村 敦） これをもって、11番 鈴木 孝議員の一般質問を終わります。